

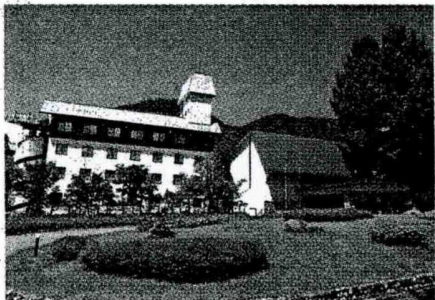
## 温泉ホテルに「健康大学」

長野9月オープン 療養のコツ 低料金で

リゾートホテル内の温泉施設を健康づくりの拠点としてリフォームし、宿泊者以外にも低料金で開放する計画が進められている。医師などが常駐し、利用者は温泉療養のコツについてアドバイスを受けられることができる。今年9月のオープンを目指している。

この計画は、経済産業省所管の社団法人、民間活力開発機構(東京)が進めている「健康づくり大学・北アルプスキャンパス」構想。長野県大町市にあるリゾートホテル「くろよんロイヤルホテル」(73室)に写真Ⅱで行われる。

健康づくり大学は、参加者が温泉地に滞在し、医師や看護師から温泉療養のコツなどを学ぶ、健康増進と生涯学習を組み合わせた取り組み。昨年9月、草津温泉(群馬県草



津町)などで始まり、今年度も岩手県・湯田温泉峡、山梨県・石和温泉郷など8県の計11地域で行われる予定だ。

これらは「期間限定」のキャンパスであるため、年間を通して参加できる常設キャンパス構想を検討。そこへ、くろよんロイヤルホテルを運営している関西電力のグループ会社、関電アメニックス社(大阪市)から「社会貢献の一環

として、ホテルの温泉施設などを開放したい」と申し出があった。

同ホテルには、源泉52度の弱アルカリ性低張性高温泉が引かれ、温泉施設のほか、屋内温水プールなどがある。これらは現在、宿泊者用の施設として利用されているが、温泉施設部分をリフォームし、宿泊者以外にも開放する。

温泉の蒸気を浴びることが出来る施設や健康食レストランを整備するほか、敷地内のゴルフ場の周りに全長3・4キロの遊歩道を設ける。リフォーム費用(約1億円)はホテル側が負担するという。北アルプスキャンパスの日帰り利用料金は1000～2000円程度に設定する予定だ。

同機構理事長の里敏行さんは「温泉を活用した健康づくりという趣旨に、企業が賛同してくれた。モデルケースとなるように運営し、将来はこうした施設を各地に設けていきたい」と話している。